

当院における尿中ポドサイト検出について

◎横山 千恵¹⁾、渡部 慎之介¹⁾、井上 真由¹⁾、根岸 知恵¹⁾、南木 融¹⁾
筑波大学附属病院¹⁾

【はじめに】慢性腎臓病(CKD)は、日本人成人約8人に1人が罹患しており国民病と言われるほどに頻度が高い。CKDの根治的治療薬がない現状において、その発症・進展阻止が急務である。腎病変評価は腎生検に頼らなければならないが、侵襲的な検査であり繰り返し行うことは困難である。それに対し、尿検査は何度でも繰り返し簡便に行える検査である。

【尿中ポドサイト測定】尿中ポドサイト測定は、鋭敏な糸球体疾患のバイオマーカーであることが多数報告されている。しかし、それらの報告における尿中ポドサイト測定方法は免疫蛍光染色法を用いたものであり、研究室レベルでは普及しつつあるが日常検査で行うことは困難である。我々は過去にS染色におけるポドサイトの細胞所見を確認したが、エビデンスは不足している。そこで、今回S染色における尿中ポドサイトについて文献的に比較考察したので報告する。

【方法】対象：2019年8月~2021年10月に尿中ポドサイトが認められた141例。検討内容：検出された患者のうちそ

れぞれの疾患の割合を算出し、過去の報告と比較した。

【結果】尿中ポドサイトが認められた検体の疾患別の割合は以下の通りである。ANCA関連腎炎32例(22.7%)、IgA腎症28例(19.9%)、糖尿病性腎症19例(13.5%)、ループス腎炎12例(8.5%)、IgA血管炎10例(7.1%)、多発性骨髄腫7例(5.0%)、PSAGN7例(5.0%)、妊娠高血圧症候群4例(2.8%)その他22例。

【考察】今回S染色において尿中ポドサイトが確認できた疾患は、報告された疾患に加え、ANCA関連腎炎でも認められた。過去の免疫蛍光染色法による報告にて60個/10ml以上認められた疾患で、S染色でも同様に認められた。また、活動性の高い腎炎または末期腎不全で認められた傾向があった。尿中ポドサイト検出は臨床的意義が高いことから、今後ルーチン検査レベルでの報告が望まれる。
連絡先：029-853-3722